

浦安とみおか川柳会

三月例会結果

日時： 令和5年3月14日(火)
 出席者： 真田宣子、塩見和昭、谷口勝、長谷川智、
 三浦みちえ、光永ひかる、森山裕子、
 山岸順、山口しだれ、山口昇柳

講師： 佐藤青樹

点数
 講師
 推奨
 課題「きらきら」互選 講評*佐藤青樹

7 泣き顔が白い歯を見せる退院日 ひかる

「泣き顔」と「白い歯」の比喩の対比が効き上手く出来た
 朝霧のスターダストが乱舞する 和昭

「朝霧が星屑のようにきらきら輝いて見える」という句
 ランドセル背負った子等の目が弾む みちえ

6 新人の目に宿ってる希望の灯 勝

一読明快の句ですが、新人のやる気を詠み込み
 ・新人の目には希望の灯が灯り

・新人の目には希望の灯が燃える
 趣味ひとつ増えて余生を光らせる ひかる

5 心こめ小さなダイヤプロポーズ 智

絵が見え、一読明快の句
 ・趣味ひとつ増やし余生を光らせる

4 山小屋の星が都会を忘れさせ 順

絵が見え、一読明快の句
 ナナハンを磨く友の目オリオン座 ひかる

3 電飾の夜景都会の闇を消す 順

「オリオン座」は冬の三角とも呼ばれ冬の星座だそうで
 ・ナナハンを磨く男の目が光る / 目が燃える
 絵が見え、一読明快の句

2 滑る結弦煌めく衣装の別世界 しだれ

句意は分かりませんが中八では
 ・滑る結弦煌めく衣装別世界

2 天の川LEDが遠ざける みちえ

絵が見え、一読明快の句
 1 リクルートスーツ朝日が眩し過ぎ みちえ

リクルートに向かう学生のリクルートスーツの面映ゆさを
 「朝日が眩し過ぎ」という比喩で読んだ上手い句

中国の煌めく今へメツキでは しだれ

中七の「今へ」は「今は」の方が良いのでは
 水上に太陽当り胸癒す 宣子

句意は分かりませんが、もう少し絵が見えるよう工夫しては
 ・浦安の海に黄道初日の出
 コロナ禍にとんとご無沙汰ネオン街 勝

「とんとご無沙汰」が効いてユーモラスにできました。
 上五は「コロナ禍へ」としてもよいのでは

マスク越し輝く目元美人顔 智

「輝く目元」は「目元輝く」の方がリズム感がよくなる
 自分の顔とサヨウナラする整形後 順

・この顔とサヨウナラする整形後
 高齢も金の輝き潜めたい しだれ

「金の輝き」は詠む人の解釈にまかせた句でしょうか
 ・祖父ちゃんの自慢の金歯ついに抜け
 吾子の目から光消えても母は母

中七；自信や気力失った？盲目ともとれる
 初めてのお使いもって目が光る

・初めてのお使い姉の目が光る
 さりげなくダイヤの指輪揺らめかす

ダイヤの指輪をちらちらひけらかす様子が見える句

課題「加える」二人選 森山裕子選

秀	客	人	地	天	軸
朝寝坊レッドカードがまた増える 薪一本足してどっぶり里の風呂 一言足すはずの言葉はありがとう 晩ごはん到来物で花を添え 隠し味足して我が家の味になる 余計なことしないと決めた林住期 ひと色を足してスカッと前を向く 老介護の不安蹴飛ばす子沢山 唐辛子加えて人気の評論家 高齢も脳活性へ趣味増やす 笑うほど七福神がやって来る 味なまね新米主夫の隠し味 自分史の胎中記憶書き加え	ひかる みちえ 宣子 みちえ 勝 和昭 ひかる 順 勝 しだれ ひかる 和昭 和昭				俎板が朝のルーティン加速する 母の愛たと溶けてるシチュー鍋 少子化は身代わりになるペット達

課題「加える」二人選 谷口 勝選

秀	客	人	地	天	軸
麻雀に妻も加わり二人負け 自分史の胎中記憶書き加え 薪一本足してどっぶり里の風呂 笑うほど七福神がやって来る シミ皺を塗りつぶしてる厚化粧 高齢も脳活性へ趣味増やす 総菜の仕上げにチーンのひとつ手間 ストレッチ筋トレ加え肉体美 急な坂散歩へプラス若返り 晩ごはん到来物で花を添え 手作りのケーキ最後は苺の座 犬を入れ我が家の写真出来上がり 味なまね新米主夫の隠し味	智 和昭 みちえ ひかる 順 しだれ 順 しだれ みちえ みちえ みちえ 宣子 和昭				唐辛子加えて人気の評論家 加えると面倒くさいあの男 隠し味足して我が家の味になる

秀	客
コロナ禍の健勝コーラスビップたれ 中国を好きではないがパンダ好き 墓じまいもう帰れない新天地 風見鶏待ってましたと恵風 母の齢なれば解るが沁みてくる シャンシャンを見送る人の目が潤む 古い壁サブリ味方によじ登り	昇柳 勝 みちえ ひかる ひかる 裕子 勝

自由吟 塩見和昭選

客	人	地	天	軸
異国語のキャリアケースが列をなす ロマン負う貧乏もまたついて来る 不都合な事はほかして書く日記 モヤモヤも雨のち晴れがあれば良し 春の予感大地に溢れ空仰ぐ 言い訳をしない無口が粹に見え 空爆の惨禍を超える地の怒り キナ臭い論議早まる四海波 コロナなどどこ吹く風邪の行楽地	みちえ 順 ひかる しだれ 順			

例会のお知らせ	日時	令和5年5月9日(火) 13:00~16:00	「犬吠」3月 掲載会員句	ウクライナジャパン名湯届けたい(しだれ) 軟水が体しっかりありがたい(昇柳) やさしさを夕日に貫う指定席(裕子) コロナ開け示唆する光初日の出(和昭) 大自然と一体になるソロキャンプ(順) 孫生まれ夜明けの空に浮かぶ月(勝) 勇気出し一声かける白い杖(みちえ)
	場所	富岡公民館		
課題	「リラックス」互選 :3句 「よせばいいのに」二人選:3句 自由吟 :3句			
	浦安川柳大会の案内 7月16日(日)			

川柳いろいろ

没句

互選（きらきら）
年代のキラキラ名前わかります
・今時のキラキラネーム分からない
流星に一縷の望み夜の底
解釈を読む人に任せたい句
満天に星が流れて夢消える

一人選（加える）
一言足すはずの言葉はありがとう
生きている楽しく元氣加え駅
急な坂散歩へプラス若返り
暗無人ほっとひと息つく桜
川柳の句吟が楽し成果良く
味見した塩分多く水を飲む
神童も年を重ねて普通人
ユーモアへピント加えるニヤリ出来
大胆な生きがい加え生きている
老介護の不安蹴飛ばす子沢山
あと一人子供産んで新婚さん

自由吟

父に似たクシヤミする息子来る
プーチンへ野球チケット届けたい
過信せず早目の降車高齢車
防空壕スマホで意味を孫二人
予定こなし手製おでんのまつたり日
無責任どっちつかずのマスクとり
定年後シルバーセンター職求め
雨の中桜吹雪にある自由
梅に小鳥瞬時華やぐ狭い庭
ブラボーにベッパミルに沸く日本
甘やかな春を届けに東風が咲く
孫のぞく顕微鏡に小宇宙

川柳の理論と実践

新家完司

「自分を詠う」と「他人を詠う」

A 弱音吐く暇もなかった寡婦の道
B 午前二時男だました紅を拭く

Aは近所の奥さんのことを詠んだご主人の居られる主婦の句
Bは作者は男性であり女装する趣味もあります
しかし両方共自分を詠う句になっています。
では「自分を詠う形」とはどのようなものか。

・コンビニに若い空気が吸いに行く
・いいことでもないから魚釣っている
主語を省いて作者の主観を述べるのが自分を詠う形です。
他人のことを推定すると、不正確で無責任な句になって
しまう。このような詠い方は避けるべきです。
「他人を詠う形」で自分を詠わないこと

C おととしの話で妻が攻め立てる
D 妻の茶碗がいちばんでかい食器棚
何故女性になったつもりで句を詠むのでしょうか？
A 夫の目を通して自分を主観的に詠った
イ 夫の心情を推定し夫になったつもりで詠った
ウ こんな夫婦もいるだろうと想像して作った
エ みんなを笑わせようと思っただけ
ア、イ共に自分を詠う方法としては適切ではありません
ウ、エは自分の姿、自分の想いを表明するという羅針盤
から外れています。自分のことを表現するなら

C 妻が攻め立てる↓夫を攻め立てる
D 妻の茶碗↓私の茶碗 とすべきです
作者の軸足と目を常に作者側に置いて他人を詠うこと。
「何のために川柳をするのか？」
自分他人を詠う形についてはベテランの川柳作家でも区別
してない人をしばしば見受けられます。川柳も創作ですから
表現は自由であるべきです。しかし他人のこころを推定
するのは相手に対し失礼で不正確で無責任な句になります
作者不在の句は作者の心情を吐露した作品の力には遠く
及びません。「今の自分の姿、想いを表明」この目標から
外れなければどのような詠い方してもかまいません。
しかし「他人の心情を推察して他人に成り代わって詠う
形」は羅針盤から大きく外れてしまします。
しっかり理解して下さい。

鑑賞 犬吠 令和三年三月号より

フラワールライン

・千紫万紅より

雪国が好き雪国が大嫌い
変えられぬ根性悔いる冬の月
人の形真似て転んだ水溜まり
特別に寂しい富士の見える丘
濃厚接触へむず痒き尾 既骨
政治家と医者ウツワを比較する
こんなにも人恋しくて予想外
卵屋の口の軽さが命取り
顔面にピストル当てる検温器
こおろぎの内に秘めたるものがたり

齋藤静江
石田らく
田村ハナ子
川原田美奈
山本由宇呆
岩間直美
肥後田鶴子
向井喜作
相葉和子
長谷川忠市

・黒潮集より

批判もあるが日の丸は美しい
腕組みを解いて右脳を遊ばせる
喪の葉書書く手は母を看取った手
カラスウリほどの薄さで生を食む
菜の花の中に菜の花その孤独

遠藤砂都市
平蔵 柊
林 はな
五十嵐幸夢
吉田貞恵

金波銀波（各地句会報）より

お見舞いに希望の嘘を置いてくる
いのちがけ人は命いくつ持つ
家族愛シャッターチャンス逃さない
父ちゃんの指切りいつも空手形
うるさいが帰ると淋し孫の声
ガラタクタの整理で終る遺産分け
老いて未だ断捨離できぬ私利私欲
今更に怖いものなし八十路前
墓仕舞いご先祖様が風になる
触れ合いを避ける努力がおもてなし
コーヒールに映る昭和へ浸る午後
食べきれず嫁に気遣いそつと捨て
生れても生まれなくても私の子
ハンドルに遊びが欲しい妻の舵

斎藤静江
柴垣 一
佐藤靖子
千葉可津子
榎本ひかる
影山照山
柳沼憲二
岩井ひさ江
羽生田はる
目黒八千代
櫻井よし子
吉田貞恵
西澤はるか

互選句 課題「最初」

令和五年

四月例会

浦安とみおか川柳会

18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
初打席ホームランでの祝い酒	新所帯まずは百均へ品定め	今日もまたドラマ乗り込む始発駅	自分流最初最後の生前葬	前世など語りはしない揚羽蝶	最初から折れてた君に今も折れ	スタートを一步遅らせ楽に生き	老舗鮫感動も次こんなもの	最初からお風呂の水は抜けないの！	最初はグー夫婦喧嘩はパーで負け	きれいだね最初の言葉で初デート	子は母の居場所確かめ遊びの輪	のっけから跳ねる若駒六冠目	暴投でデッドボールの始球式	育児書が先生だった最初の子	神童も今ではただのお爺さん	さあおいでつかまり立ちの手を離す	カラオケの出だし好調靴が鳴る
36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19
						二十五年震災備蓄最初抜く	とりあえずちよい呑み頼む縄のれん	願いごと最初は家族神頼み	最初はグー負けて涙の知恵がつき	一姫の次は太郎と陰の声	入念の化粧で遅刻入社式	ヒロシマへ初の原爆キノコ雲	初めは恋今は検査で痛む胸	馴れ初めを聞かれときめき思い出す	味よりも初物選ぶ好奇心	浦安が最初戸建て楽しく生き	一人暮らしの親父に送る朝メール